

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成17年12月2日(2005.12.2)

【公開番号】特開2002-113021(P2002-113021A)
【公開日】平成14年4月16日(2002.4.16)
【出願番号】特願2001-247463(P2001-247463)
【国際特許分類第7版】
A 6 1 C 13/00
【F I】
A 6 1 C 13/00 D

【手続補正書】
【提出日】平成17年7月1日(2005.7.1)

【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【書類名】明細書
【発明の名称】局部床義歯

【特許請求の範囲】

【請求項1】 残存歯(2, 3, 4, 5, 6)に装着して用いる局部床義歯(1)であって、残存歯(2, 3, 4, 5, 6)に装着した時局部床義歯(1)と残存歯(2, 3, 5, 6)との間に生じる隙間(38, 39, 70, 93, 94)を被覆するための被覆片(7, 8, 9, 10, 11)を、局部床義歯(1)間に連結用部材(25, 28, 30, 30')を介して可動可能に設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項2】 請求項1記載の局部床義歯(1)において、前記被覆片(7, 8, 9, 10, 11)は、被覆片延長部(12, 13, 14, 15, 16)が一体に添設されていることを特徴とする局部床義歯。

【請求項3】 請求項1記載の局部床義歯(1)において、前記被覆片(7, 8, 9, 10, 11)の片表面色(17)が前記局部床義歯(1)の床(19)の床表面色(18)と同一色であることを特徴とする局部床義歯。

【請求項4】 請求項1記載の前記局部床義歯(1)において、前記連結用部材(28, 29, 30, 31, 71)には接続台(67, 80, 84, 95, 116)を設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項5】 請求項1記載の前記連結用部材(25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 71)で前記可動可能において、可動可能ならしめる機能をもつ可動材(51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58)を設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項6】 請求項1、5記載の前記連結用部材(25, 28, 30)において、前記可動材(51, 54, 56)には引っ張り棒ばね(24, 59, 87)を設けて棒でつくったばねを用いたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項7】 請求項1, 4, 5記載の前記連結用部材(26)において、前記可動材(52)には带状板でつくった引っ張り板ばね(41)を設けて板でつくったばねを用いたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項8】 請求項1, 4, 5記載の前記連結用部材(27)において、前記可動材(53)には引っ張りコイルばね(45)を設けてコイルでつくったばねを用いたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項9】 請求項1, 4, 5記載の前記連結用部材(29, 31)において、前記可動材(55, 57)には潰し圧縮コイルばね(78, 106)を設けてコイルを略平面状

に潰したばねを用いたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項 10】 請求項 1, 4, 5 記載の前記連結用部材 (71) において、前記可動材 (58) には磁石 (115, 115') を用いたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項 11】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 71) において、これには連結材 (32, 43, 47, 48, 49, 50, 99, 104) を設けたことを特徴とする局部床義歯

【請求項 12】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (28, 29, 30, 31) において、前記連結材 (48, 49, 50, 99) には板 (63, 76, 86, 101) にして設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項 13】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (71) において、前記連結材 (104) は直線状をした棒 (111) にこれと平行にて一体に横転防止棒 (112) を設けてできていることを特徴とする局部床義歯。

【請求項 14】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (28, 29) において、前記連結材 (48, 49) の板 (63, 76) が係合した溝 (68, 68', 72, 72') にてなる軌道 (69, 69', 74, 74') を設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項 15】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (71) において、前記連結材 (104) が係合した透孔 (121, 121') にてなる軌道 (123, 123') を設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項 16】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (25) において、前記連結材 (32) の棒 (37) が係合して支点 (35) をつくった縦支点材 (34) を設けたことを特徴とする局部床義歯。

【請求項 17】 請求項 1, 4 記載の前記連結用部材 (30, 31) において、前記連結材 (50, 99) の板 (86, 101) が係合して支点 (88, 102) をつくった横支点材 (89, 97) を設けたことを特徴とする局部床義歯。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、歯科用で局部床義歯において、残存歯に局部床義歯を装着して残存歯の豊隆部の下部と局部床義歯との間に生じる隙間に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の前記隙間においては、何の対応処置も施されていない。

【0003】

【発明の解決しようとする課題】

従来の前記隙間においては、食物が挟まり煩わしくまたは美観を損う等の問題点があった。

【0004】

本発明では、前記隙間において、これに被せる被覆片を、局部床義歯間に設けた連結用部材にて可動可能にすることにより解決せんとするを目的としたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、連結用部材に被覆片可動可能ならしめる機能をもつ可動材を設けると効果的である。

【0006】

前記被覆片においては、鉤を要する残存歯に被覆片を被せる場合は鉤の代役可能に被覆片を適宜に延長してつくとよい。

【0007】

前記被覆片の片表面色は、局部床義歯の床表面色と同一色にするとよい。

【0008】

前記連結用部材には、後記する連結材並びに可動材を嵌脱可能にするために接続台を設

けるとよい。

【0009】

前記可動材には、ばねを用いるのもよい。

【0010】

前記可動材には、磁石を用いるのもよい。

【0011】

前記連結用部材において、被覆片と可動材とを連結する連結材を設けるとよい。

【0012】

前記連結材には、板を用いるのもよい。

【0013】

前記連結材には、二本の棒を平行にて一体にしてつくって用いるのもよい。

【0014】

前記連結用部材において、被覆片を正確な進退可能ならしめるための軌道を設けるとよい。

【0015】

前記連結用部材において、被覆片の遊動を制御する支点を設けるとよい。

【0016】

【発明実施の形態】

発明実施の形態を実施例にもとづき図面を参照して説明する。

図1に示される実施例では、例えば上顎の局部床義歯1にて図説したもので残存歯2, 3, 4, 5, 6に局部床義歯1を装着した上面図であり（齦部の図示は省略した）、局部床義歯1に設ける鉤（クラスプ）を要する残存歯2, 3, 5, 6において鉤の代役をするまたは残存歯の植立状態等の理由で漠然とした境界で適宜に延長してつくった被覆片延長部12, 13, 14, 15, 16がそれぞれ一体に添設されてできている被覆片7, 8, 9, 10, 11はこれの材料は例えば床19の材料と略同じの即時重合レジンでつくってあると共にこの被覆片7, 8, 9, 10, 11の片表面色17が局部床義歯1の床19の床表面色18と同一色（略ピンク色）にてつくってある。また後記するA-A線、B-B線、C-C線の断面線と、局部床義歯1の人工歯20, 21, 22, 23, 73とを図示した。

【0017】

図2に示される実施例では、図3と一連のもので拡大した図1のA-A線断面図である（前置きとして、唇側の方を前方、舌側の方を後方、概して咬合平面の方を上方、極細の線でも棒と呼ぶ事とした）。この残存歯2の遠心部の側面に対面する局部床義歯1の床19と人工歯20の側面には、局部床義歯1と連結されている被覆片7を（後記する被覆片8, 9, 10, 11をも同様）可動可能な

らしめる機能をもつ可動材51を設けてこれには棒を直線状、月状、人状にして設けるのも良く例えば月状に切曲してつくった引っ張り棒ばね24を用いた。

【0018】

そして前記引っ張り棒ばね24の後部は外方に向けて折り返した部分を固定部36として用いると共に前部は被覆片7と連結した連結材32には略水平に折曲してつくった折曲容易な棒37を用いてつくった連結用部材25は掘削部33に嵌入して固定部36が局部床義歯1と埋没固定してある。さらに加えて連結用部材25には材料は直線状の棒を用いこれの下部は任意に僅かに折曲して固定部131としそして作用点（被覆片を指す）は横方向に働く縦支点材34を連結材32の棒37の近心部に立てて設け且つ進退可能に棒37に密接して支点35ができており、そしてて固定部131が局部床義歯1に埋没固定してある。

【0019】

図3に示される実施例では、図1の説明不要部は破断して拡大した正面図であり、被覆

片延長部 1 2 を添設してなる被覆片 7 と被覆片延長部 1 3 を添設してなる被覆片 8 との鉤の代役を求められるこの二者はさらに被覆片を延長して一体にて連結されており、これを人工歯 2 0, 2 1 の歯頸部にはそれぞれ僅かに被覆し、鉤を要する残存歯 2 の歯頸部には鉤の代役充分可能に被覆してあり、且つ局部床義歯 1 の床 1 9 の床縁 4 0 と残存歯 2 の遠心部並びに近心部との間にできた隙間 3 8、3 9 を被覆しており、そして連結用部材 2 5 の連結材 3 2 の棒 3 7 が被覆片 7、8 に埋没固定されておる。なお図面は省略したが局部床義歯 1 の人工歯 2 1 の近心部に連結用部材 2 5 とは向きが反対向きで全く同じ構造の連結用部材を設定しこれの連結材を被覆片 8 に埋没固定する等も良い。

【0020】

図 4 に示される実施例では、図 2 に示した連結用部材 2 5 の実施例で連結用部

材 2 6 のみの拡大した斜視図であり、可動材 5 2 には帯状板で Λ 状に折曲するの

も良く例えば Λ 状に折曲してつくった引っ張り板ばね 4 1 を用い、そしてこれの

後部は外方に折り返して局部床義歯と固定される固定部 4 2 がつくってあり、さらに引っ張り板ばね 4 1 の前部は被覆片と連結する連結材 4 3 には適宜に折曲容易な棒 4 6 にしてつくってある。

【0021】

図 5 に示される実施例では、図 2 で示した連結用部材 2 5 の実施例で連結用部材 2 7 のみの拡大した側面図であり、可動材 5 3 は圧縮コイルばねでつくるのも良くまたはコイルを略平面状に潰して用いるのも良く例えば外径が極小の引っ張りコイルばね 4 5 を用い、これの上部は上方に向けて略円形状に折曲して局部床義歯と固定される固定部 4 4 をつくって設けると共に、下部の被覆片と連結される連結材 4 7 には前方に向けて略水平につくって設けた棒 6 0 でできておる。なおこの引っ張りコイルばね 4 5 はこれの下部を横方向に引っ張って（通常軸方向に引っ張る）用いるようにしたものである。

【0022】

図 6 に示される実施例では、図 7 と一連のもので拡大した図 1 の B-B 線断面図であり、この残存歯 3 の近心部の側面に対面する局部床義歯 1 の床 1 9 と人工歯 2 2 の側面には、接続台 6 7 の基板 1 2 2 に横長形状の板を用いこれの上部と下部とを折り返し部 6 1, 6 1' で手前の方に向けて折り返してできた台上板 1 0 9, 1 0 9' と接続台 6 7 の基板 1 2 2 との間にできた溝 6 8, 6 8' を軌道 6 9, 6 9' として用いた。そして被覆片 9 と連結した連結材 4 8 の前部は折曲容易な棒 6 2 でつくりこれと一体に後部は軌道 6 9, 6 9' に嵌合密接して進退可能な板 6

3 とにてできている。そして可動材 5 4 には棒を Λ 状に複数回折曲してつくった

引っ張り棒ばね 5 9 を用いて、これは接続台 6 7 の後端部を手前に向けて再度折り返してつくった鉤 6 5 と板 6 3 の前部に設けた鉤 6 4 とに引っ掛けて被覆片 9 を進退可能に引っ張っている。斯くつくった連結用部材 2 8 の接続台 6 7 は掘削部 6 6 に嵌合して局部床義歯 1 と固定されている。

【0023】

図 7 に示される実施例では、図 1 の説明不要部は破断して拡大した左側の頬側のみの正面図であり、被覆片延長部 1 4 を添設してなる被覆片 9 は人工歯 2 2 の歯頸部には僅かに被覆して且つ鉤を要する残存歯 3 の歯頸部には鉤の代役充分可能に被覆してあり（残存歯 4 は鉤不要）、さらに局部床義歯 1 の床 1 9 の床縁 4 0 と残存歯 3 との間にできた隙間 7 0 を被覆しており、そして連結用部材 2 8 の連結材 4 8 の棒 6 2 は被覆片 9 に埋没固定されておる。

【0024】

図 8 に示される実施例では、図 6 の連結用部材 2 8 の実施例で連結用部材 2 9 のみの拡大した側面図であり、接続台 8 0 の基板 1 2 9 に横長の方形状の板を用いこれの上部と下部とを折り返し部 7 9, 7 9' で手前の方に向けて折り返してできた台上板 1 1 0, 1 1 0

と接続台 80 の基板 129 との間にできた溝 72, 72' を軌道 74, 74' として用いた。そして連結材 49 はこれの前部には被覆片と連結する部分が適宜に折曲容易な棒 75 を設けそしてこれと一体で後部には軌道 74, 74' に嵌合密接して進退可能にてなる板 76 を停止板 130 にて後退を停止させて設けてさらに板 76 の後部は幅を狭くして折り返し部 81 で手前の方に向けて折り返して板 76 の前部迄及んだ上板 77 がつくられており且つ上板 77 と板 76 との間に僅かな隙間を作っていてできる。そして可動材 55 はコイルばねを略平面状に潰してつくった潰し圧縮コイルばね 78 を用いてこれの中空部に上板 77 を嵌入すると潰し圧縮コイルばね 78 の一方端は折り返し部 81 で動きは停止しており他方端は台上板 110 の後部を折曲してつくった鉤 82 に引っ掛けてできている。

【0025】

図 9 に示される実施例では、図 10 と一連で拡大した図 1 の C-C 線断面図であり、残存歯 5 の遠心部の側面に対面する局部床義歯 1 の床 19 と人工歯 23 の側面には接続台 84 の基板 127 に横長の略形状の板を用いこれの前方を除く三方の辺縁部を手前の方に向けて折曲して立てた囲い 83, 83', 83" をつくり、この囲い 83 の前端的下面を横方向に水平につくって作用点が上、下方向に働く横支点材 89 が設けてありさらにはこれの後部に切曲してつくった鉤 90 が設けてある。そして連結材 50 はこれの前部で被覆片 10 と固定連結した部分に用いた棒 85 とこれと一体にて後部に用いた板 86 とにてできている。

【0026】

そして可動材 56 は例えば棒を J 状に複数回折曲して作った引っ張り棒ばね

87 の一方端は板 86 の前部の下部に設けた鉤 91 に引っ掛けて他方端は上部にある囲い 83 に設けた鉤 90 に引っ掛けてあり、この事から上部にある鉤 90 に固定された弾性は下部にある鉤 91 と一体の板 86 の後部を上方に引っ張り上げる力が予想以上に働いても対応可能に板 86 の後部と囲い 83 との間には空間 107 が設けてあり、斯くして連結材 50 の板 86 は横支点材 89 に進退可能に密接して支点 88 ができている。斯くつくった連結用部材 30 と一体の接続台 84 は掘削部 108 に嵌合して局部床義歯 1 と固定してある。

【0027】

図 10 に示される実施例では、図説不要部は破断した図 1 の拡大した右側で頬側面のみの正面図であり、被覆片延長部 15 を添設してなる被覆片 10 には連結用部材 30 の棒 85 が埋没固定されており、そして被覆片延長部 16 を添設してなる被覆片 11 には床 19 と人工歯 73 の近心部に設けた連結用部材 30' (この図説は省略したが連結用部材 30 と 30' とは近心部または遠心部への設定で向きが変わるのみで構造は全く変わらない) の連結材 50' の棒 85' が埋没固定されており、さらに被覆片 10 と 11 との両者は凹凸をつくらない為に連結されて一体にできている、この被覆片 10, 11 はそれぞれに人工歯 23, 73 の歯頸部には僅かに被覆し且つ鉤を要する残存歯 5, 6 の歯頸部には鉤の代役充分可能に被覆しさらには局部床義歯 1 の床 19 の床縁 40 と残存歯 5, 6 との間にできた隙間 93, 94 に被覆してある。

【0028】

図 11 に示される実施例では、図 9 の連結用部材 30 の実施例で連結用部材 31 のみを拡大した側面図であり、接続台 95 の基板 128 に横長で略形状の板を用いこれの前方を除く三方の辺縁部を手前の方に向けて折曲して立てた囲い 96, 96', 96" をつくり、囲い 96 の前端的下面を横方向に水平につくって作用点が上、下方向に働く横支点材 97 を設け、囲い 96 の後部にはこれを切曲してつくった鉤 98 が設けてある。且つ連結材 99 はこれの前部に被覆片と連結する部分には棒 100 を用いそしてこれと一体にて後部は板 101 を用いると共にこの板 101 の後部は折り返し部 103 で手前の方に向けて折り返してできた上板 105 は板 101 との間に僅かな隙間をつくって板 101 の前部に及んで設けてできている。

【0029】

そして可動材５７は略平面状に潰した潰し圧縮コイルばね１０６を用いると共にこれの中空部に上板１０５を嵌入すると潰し圧縮コイルばね１０６の一方端は折り返し部１０３で動きは停止しており他方端は上方に設けた鉤９８に引っ掛けてあり、この弾性は上方から下方にある上板１０５を上方に引っ張り上げる力が予想以上に働いても対応可能に板１０１の後部と囲い９６との間に空間１３２がつくってある。斯くして板１０１は横支点材９７に進退可能に密接して支点１０２をつくっている。

【００３０】

図１２，１３に示される実施例では、連結用部材７１のみの拡大した側面図と図１２のＤ－Ｄ線断面図であり、被覆片と連結する直線状をした棒１１１とこれに平行に設けた直線状した横転防止棒１１２とは直線状をした柱１１３にてそれぞれ連結固定して棒１１１、柱１１３、横転防止棒１１２の三者は一体にて工字状につくられて連結材１０４ができておる。そして接続台１１６の基板１１８には台形状の板を用いてこれの下部と上部とを折り返し部１１４，１１４'で手前の方に向けてそれぞれ折り返してできた上板１１９と基板１１８との間には棒１１１が進退可能に嵌合した溝１１７がつくられておると共に上板１１９'と基板１１８との間には横転防止棒１１２が進退可能に嵌合した溝１１７'がつくられて接続台１１６ができておる。

【００３１】

また可動材５８に用いた磁石１１５，１１５'の下面（棒１１１と対向する面）には棒１１１が進退可能に嵌合した溝１２０，１２０'がつくってあると共に磁石１１５，１１５'の上面（横転防止棒１１２と対向する面）には横転防止棒１１２が進退可能に嵌合した溝１２４，１２４'がつくってあり、さらに柱１１３と対向する磁石１１５，１１５'の面には柱１１３が嵌合した溝１２５，１２５'がつくってある。且つ磁石１１５，１１５'の外方端には局部床義歯と固定する切除してつくった固定部１２６，１２６'を設けて可動材５８ができておる。

【００３２】

そして（特に図１３を参照されたい）接続台１１６の下部に設けた溝１１７と磁石１１５，１１５'の下面に設けた溝１２０，１２０'とが対向して棒１１１を囲んでできた透孔１２１を軌道１２３として用いると共に接続台１１６の上部に設けた溝１１７'と磁石１１５，１１５'の上面に設けた溝１２４，１２４'とが対向して横転防止棒１１２を囲んでできた透孔１２１'を軌道１２３'として用いて連結用部材７１ができておる。さらには図１２で詳述すると、被覆片は左にあり「左向き」にできている連結用部材７１は磁石１１５'の固定部１２６'を接続台１１６と共に局部床義歯に固定したとして連結材１０４を引っ張ると連結材１０４は固定された磁石１１５'と引っ張り合っている磁石１１５と共に進退する事となり、これを設定場所により「右向き」にするときには磁石１１５の固定部１２６を局部床義歯に固定したとすると連結用部材７１の右の方から連結材１０４を嵌合すると良く、つまり固定部１２６または１２６'の何れかを固定することにより何れの設定場所にも適応可能にできておる。

【００３３】

【発明の効果】

本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する

【００３４】

請求項１においては、局部床義歯と残存歯との間にできた隙間には、連結用部材に設けた可動材にて可動可能にできた被覆片を被覆したので、美観をも満足させると共に食物が挟かることはなく不潔と嫌悪感を払拭した。

【００３５】

請求項２での被覆片延長部においては、局部床義歯と鉤を要する残存歯との間に生じた隙間に被せた被覆片を更に延長してつくった被覆片延長部を設けて、これにて鉤を要する残存歯の豊隆部の高低には気遣う事なく齧ギリギリの所を鉤の代役可能に被覆して、老いの証明ともなり、または食物の淀みを齎し、さらには本人は勿論の事他人から見ても不愉快

快な思いをする等の元凶でもある鉤そのものを排除した。

【0036】

請求項3での片表面色においては、被覆片の片表面色と局部床義歯の床表面色とを同一色にしたので、本人の顎なのか又は局部床義歯の床、或いは被覆片なのか判別が出来ない程に違和感が無く美意識を満足させる。

【0037】

請求項4での接続台においては、連結用部材は主として可動材、連結材、固定材の三者にてできており、これを三者一体に作ると三者の一方のみを修正または交換は不可能で且つ被覆片をも作り変えなくてはならない、この事から可動材と連結材との二者を個々に嵌脱可能な固定材を備え持つ接続台を設けた事から、被覆片に支障を来した時は被覆片と一体の連結材を取り外して修正または交換すれば良く、可動材も同様是のみを取り外して修正、交換すれば良く、斯く修正、交換、作り変えを容易ならしめると共に接続台には軌道を容易に設ける事も可能である。

【0038】

請求項5での可動材においては、被覆片は残存歯と密接または離間を求められる事から、被覆片を可動可能ならしめる機能をもつ不可欠の可動材を設けた。

【0039】

請求項6での棒ばねにおいては、人工歯の下顎前歯のように設定範囲の極めて狭い場合何れの方角にも切曲容易で且つ構造が単純である事から清潔で清掃も容易な棒ばねを用いた。

【0040】

請求項7での板ばねにおいては、板ばねを用いると棒ばねを一連にて重ねて作ったのと同様の性能を持ち、狭い場所にも設定可能であると共に構造が単純である事から清潔で清掃も容易である。

【0041】

請求項8でのコイルばねにおいては、コイルばねを用いると長い棒を捲いて出来ている事から、同じ弾力の負荷を要求された場合短い棒で受動するより、長い棒で受動する方が同じ長さに掛かる負荷は小さいので無理が無く弾力を円滑に働かせることが可能で劣化も少なく優れた性能をもつ。

【0042】

請求項9での潰しコイルばねにおいては、コイルを潰すと無用な中空部は圧縮されて殆ど無くなり、それだけ装置の縮小化に貢献する。

【0043】

請求項10での磁石においては、磁石は劣化がないと共に強力な磁力を利用すると設定場所は嵩張る事無く装置の縮小化に貢献する。

【0044】

請求項11での連結材においては、連結材は被覆片と可動材とを直接、間接に仲介するものであり、被覆片を作る作業で肉の薄い被覆片に埋没固定するときは、美観を損う事無く且つ補強の重責をも忘れずに歯部に沿うて被覆片の上、下面の中間に来るように、また可動材にも直接、間接に連結するもので命綱とも言える。

【0045】

請求項12での板においては、板の上、下の端部に係合する軌道を設けると、下端部に設けた軌道には板の下端部が係合して進退し、上端部に設けた軌道には板の上端部が係合して進退すると共に横転防止としての働きをも持つ事つ事ができる。

【0046】

請求項13での横転防止棒においては、連結材に二本の棒を平行に設けて、下段の棒は単に軌道を進退して働き、上段の横転防止棒は軌道にて働くと共にこれに固定連結された被覆片の横方向に転ぶのを防ぎ、さらにはこの下段の棒との間の無用の空間には可動材を挟み込んで設ける事も可能な事から装置の縮小化に貢献する。

【0047】

請求項 1 4、1 5での軌道においては、連結材に固定連結された被覆片が進退するとき、これが遊動すると床と被覆片との間に却って大きな隙間ができて支障を来す事になる等から、被覆片が進退するとき元の正位置に必ず嵌り込んで正確な働きが出来るように軌道を設けて前記した支障を払拭した。さらには被覆片を作るとき、美観を損わない並びに補強線ともなり得る効果を求められている連結材は切曲調整には数回は嵌脱を強いられる事から、作業の最初に軌道を床に固定しておくで基本が確定して作業が容易で正確なものとする。

【0 0 4 8】

請求項 1 6での縦支点材においては、縦支点材は連結材と一体の被覆片の横方向の遊動を制御するものであると共に、被覆片を作るとき被覆片が嵌合する凹部が床に作ってあり、この凹部の一方側には被覆片の遊動を制御する堤が自ずとできており、凹部の他方側には堤が無い又は低い場合はこの他方側に向かって被覆片が遊動をしない様に縦支点材を設けて被覆片の遊動を制御したものである。

【0 0 4 9】

請求項 1 7での横支点材においては、横支点材は連結材と一体の被覆片が上、下方向の遊動を制御するもので、「長い被覆片」を作るときは、この被覆片が嵌り込む床に掘削して設けた凹部の両側には必ず自ずと堤が出来ておる場合、この両側の堤に拠り被覆片の横方向の遊動は制御されて、被覆片の上、下方向への遊動のみを制御すれば良い事となり、この事から横支点材を設け可動材（力点）は僅かに上方から引っ張ると被覆片（作用点）は下方に向かって働き床と密接して隙間を作る事なく進退するので被覆片の浮揚を防ぐ事が出来る。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

上顎の残存歯に局部床義歯を装置して反転した上面図。

【図 2】

図 1 の A－A 線断面図。

【図 3】

被覆片を詳述した図 1 の正面図。

【図 4】

連結用部材のみの実施例を示した斜視図。

【図 5】

連結用部材のみの実施例を示した側面図。

【図 6】

図 1 の B－B 線断面図。

【図 7】

被覆片を詳述した図 1 の左側のみの正面図。

【図 8】

連結用部材のみの実施例を示した側面図。

【図 9】

図 1 の C－C 線断面図。

【図 1 0】

被覆片を詳述した図 1 の右側のみの正面図。

【図 1 1】

連結用部材のみの実施例を示した側面図。

【図 1 2】

連結用部材のみの実施例を示した側面図。

【図 1 3】

図 1 2 の D－D 線断面図。

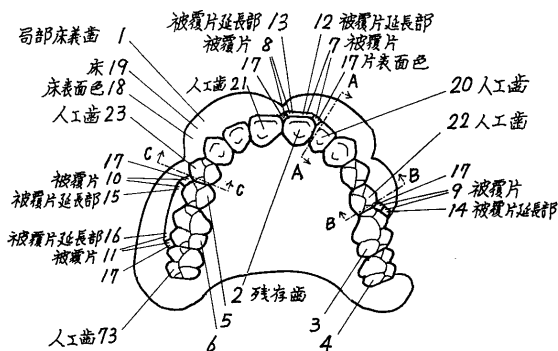
【符号の説明】

1 局部床義歯

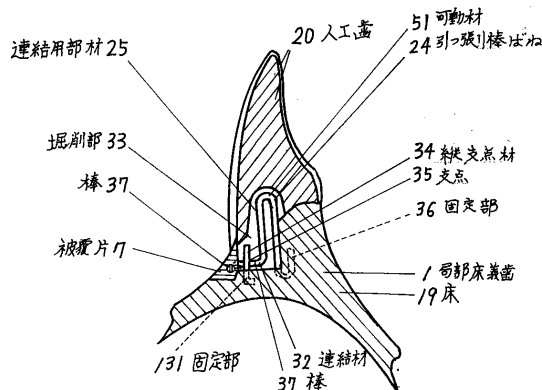
2, 3, 4, 5, 6 残存歯
3 8, 3 9, 7 0, 9 3, 9 4 隙間
7, 8, 9, 1 0, 1 1 被覆片
1 2, 1 3, 1 4, 1 5, 1 6 被覆片延長部
6 7, 8 0, 8 4, 9 5, 1 1 6 接続台
2 5, 2 6, 2 7, 2 8, 2 9, 3 0, 3 0', 3 1, 7 1 連結用部材
2 4, 5 9, 8 7 引っ張り棒ばね
4 1 引っ張り板ばね
4 5 引っ張りコイルばね
7 8, 1 0 6 潰し圧縮コイルばね
1 1 5, 1 1 5' 磁石
6 9, 6 9', 7 4, 7 4'、1 2 3, 1 2 3' 軌道
3 4 縦支点材
8 9, 9 7 横支点材

【手続補正 2】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】全図
【補正方法】変更
【補正の内容】

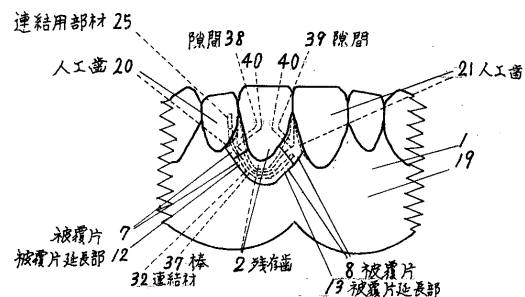
【図 1】



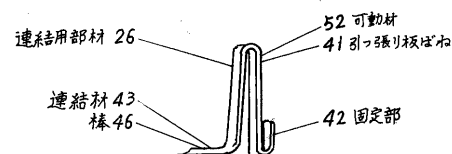
【図 2】



【図 3】



【图 4】



【图 5】

